

- 問1 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？
- 問2 平安時代初期に空海らが唐から伝え、当時の貴族や僧侶の間で信仰された、高度な儀式や修行を重んじる新しい仏教の教えを何という？
- 問3 平安時代中期に、貴族社会を題材とした長編物語『源氏物語』を執筆した女性作家は誰？
- 問4 源氏物語が生まれた当時の、貴族の感性を反映した日本独自の華やかな文化を何という？
- 問5 平安時代に日本独自の文化が発展したきっかけとなった、遣唐使が停止された時期はいつ？
- 問6 上皇が権力を強めるため、自らの警護や武力行使のために雇った地方の武士団を何という？
- 問7 平安時代、紀貫之に最初の勅撰和歌集の編纂を命じた天皇は誰？
- 問8 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問9 平安時代中期に『源氏物語』を執筆し、一条天皇の中宮彰子に仕えた女性作家は誰？
- 問10 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？
- 問11 清少納言が仕え、『枕草子』執筆のきっかけとなった一条天皇の後は誰？
- 問12 939年、関東地方を拠点として朝廷に反旗をひるがえした武士は誰？
- 問13 平安時代に遣唐使の廃止などを背景に栄えた、日本の風土に合わせた独自の文化を何という？
- 問14 794年に桓武天皇が建設し、その後長きにわたって日本の中心となった新しい都を何という？
- 問15 平安時代に唐から帰国し、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を開いた僧は誰？
- 問16 平将門が乱の中で自らを称し、独立した政権を立てようとした称号は何？
- 問17 清少納言が記した、宮廷の生活や自然について独自の感性で書きつづった日本を代表する文学形式は何？
- 問18 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？
- 問19 桓武天皇から命を受け、蝦夷を服属させるために派遣された武将は誰？
- 問20 国司が中央政府から認められた、現地の税を集める権利を何という？
- 問21 「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも 無しと思えば」という歌を詠み、摂関政治の全盛期を築いた人物は誰？
- 問22 紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最初の勅撰和歌集を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え</b> 中尊寺金色堂	中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。
問2	<b>答え</b> 密教	密教とは、仏の教えを秘密の教えとして、師から弟子へと直接受け継ぐ仏教の一派です。空海は真言宗として、最澄は天台宗の中に密教を取り入れました。この教えは、曼荼羅（仏の世界を絵にしたもの）や、手で印を結び、真言（呪文）を唱えるといった修行を重視します。
問3	<b>答え</b> 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問4	<b>答え</b> 国風文化	かな文字の発達により、『源氏物語』や『枕草子』などのすぐれた文学作品が生まれました。また、貴族の住宅様式である寝殿造や、大和絵などの芸術も発展し、平安貴族の生活に深く根付いた文化が形成されました。
問5	<b>答え</b> 9世紀末	894年、菅原道真の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問6	<b>答え</b> 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問7	<b>答え</b> 醍醐天皇	醍醐天皇は学問や芸術を尊重し、多くの文人を重用しました。905年、彼は紀貫之らに命じて、それまでの和歌を集めた日本初の勅撰和歌集『古今和歌集』を編纂させました。この事業は、日本の文学史において非常に重要な出来事です。
問8	<b>答え</b> かな文字	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問9	<b>答え</b> 紫式部	紫式部は、中宮彰子に仕える女房として宮廷で生活しながら、全54帖からなる『源氏物語』を執筆しました。この作品は、貴族社会の人間模様や恋愛、栄枯盛衰を細やかに描いた世界文学の傑作です。また、彼女が日々の生活や宮中の様子を書き留めた『紫式部日記』も、当時の歴史を知るための貴重な資料となっています。
問10	<b>答え</b> 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとしました。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。
問11	<b>答え</b> 中宮定子	中宮定子は非常に教養深く、気品あふれる人物として知られていました。彼女に仕えた清少納言は、その優雅な振る舞いやサロンの様子を『枕草子』の中に書き残しました。定子は、平安貴族の優雅な生活を象徴する存在の一人です。
問12	<b>答え</b> 平将門	平将門は、関東の有力者として朝廷の支配に対して反乱を起こしました。勢力を拡大した将門は、自らを「新皇」と名乗り、独立した政権の樹立を目指しました。この乱は、当時の朝廷に大きな衝撃を与えました。
問13	<b>答え</b> 国風文化	国風文化は、平安時代の中頃から後半にかけて貴族を中心に発達した文化です。それまでの唐風の文化から脱却し、日本の自然や風土、日本人の心情に適した形へと発展しました。仮名文字の発明により、文学や芸術が非常に豊かになったのが特徴です。
問14	<b>答え</b> 平安京	平安京は、現在の京都盆地に造営されました。中国の長安にならって整然と区画整理された都市であり、中央には天皇の住む御所、その南には広大なメインストリートである朱雀大路が通っていました。遷都は794年に行われ、以後明治維新まで長きにわたって日本の政治・文化の中心地となりました。
問15	<b>答え</b> 最澄	最澄は、唐に渡って天台の教えを学び、日本に帰国して比叡山に延暦寺を建立しました。彼は「すべての人が救われる」という平等を説き、厳しい修行を重視する天台宗を開きました。また、比叡山には多くの優れた僧が集まり、後の日本仏教界に多大な影響を与えました。
問16	<b>答え</b> 新皇	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真っ向からの挑戦を意味していました。
問17	<b>答え</b> 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式にとらわれず、作者が思ったことや見たこと、季節の移り変わりなどを書き記す形式です。清少納言の『枕草子』はその代表格であり、彼女の鋭い視点やユーモア、時には批判的な意見なども書き込まれています。かな文字が使われたことで、日本語特有のリズムや情緒を豊かに表現できるようになりました。
問18	<b>答え</b> 真言宗	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問19	<b>答え</b> 坂上田村麻呂	坂上田村麻呂は、桓武天皇により「征夷大將軍」に任命され、大規模な軍を率いて東北へ向かいました。彼は蝦夷の指導者であった阿豆流為らを降伏させ、朝廷の支配圏を現在の岩手県あたりまで拡大させました。
問20	<b>答え</b> 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問21	<b>答え</b> 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問22	<b>答え</b> 古今和歌集	『古今和歌集』は、紀貫之らが中心となって編纂した、日本で最も古い勅撰（天皇の命令による）和歌集です。当時の洗練された貴族の生活や自然への思いが反映されており、後の文学作品に多大な影響を与えました。仮名文字を用いて書かれたことが特徴です。